

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 3 報
千葉県農林水産部
平成30年6月19日

「ふさおとめ」「ふさこがね」は追肥の時期です 葉色はやや濃く推移しています

[生育概況]

6月6日頃に関東甲信地方は梅雨入りしたと見られ、第3半旬以降、気温はやや低く、日照時間は少なくなっています。4月20日植えの「ふさおとめ」および「ふさこがね」、一部の「コシヒカリ」は、幼穂形成期となっています。また、「コシヒカリ」は、草丈が長く、葉色はやや濃く推移しているため、倒伏に注意します。

表1 品種別の生育状況（6月15日現在）

品種	植付時期	平年比 ^{※1}			
		生育進度 ^{※2} (幼穂形成期 ^{※3})	草丈	莖数	葉色
ふさおとめ	4月20日	やや早(6月11日)	並	並	やや濃
ふさこがね	4月20日	早(6月11日)	並	並	やや濃
コシヒカリ	4月20日	やや早	長	並	やや濃
	5月1日	並	やや長	並	やや濃
ふさのもち	4月20日	並	やや長	並	やや濃
	5月10日	やや早	やや長	やや多	並

※1 平年比は過去10か年（2008～2017年）の平均値との比較

ただし、「ふさのもち」は過去8か年（2010～2017年）の平均値との比較

※2 幼穂形成期の実績値および予測値により判断

※3 幼穂形成期は、農林総合研究センター（千葉市）のほ場

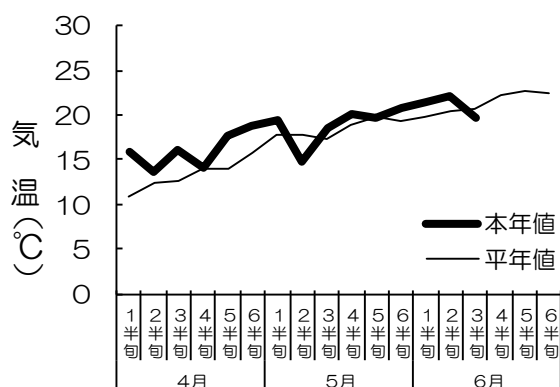


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

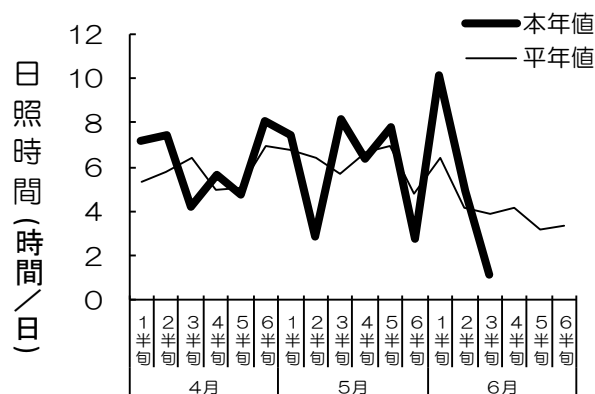


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■生育の進みに応じた適期作業の実施

幼穂形成期は、「ふさおとめ」が平年と比較して5日程度早く、「ふさこがね」が6～8日程度早くなっています。また、4月20日植えの「コシヒカリ」は2～5日程度早くなる見込みです。現在、「ふさおとめ」と「ふさこがね」は追肥の時期となっていますので、早めにとりかかりましょう。また、「コシヒカリ」は徒長気味で、葉色がやや濃く推移しているため、施肥時期を遅らせ、施肥量を減らします。早期の追肥は倒伏を招くため、必ず幼穂長を確認して、追肥を判断しましょう。

■穂肥の実施

穂肥の施用時期が早いと倒伏や籾数過剰による登熟不良や玄米外観品質低下を招くおそれがあります。品種別・地域別の幼穂形成期及び穂肥施用適期の目安（表2）を参考に、幼穂長を確認し適期に穂肥を実施しましょう。

表2 品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期予測				穂肥施用適期の目安
		県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)	
ふさおとめ	4月20日	6月12日	6月11日	6月11日	6月11日	幼穂形成期から1週間以内 【幼穂長 1mm～1cm】
ふさこがね	4月20日	6月14日	6月12日	6月11日	6月11日	幼穂形成期から7日後頃 【幼穂長 1cm】
コシヒカリ	4月20日	6月23日	6月21日	6月20日	6月20日	幼穂形成期7日後頃～ 15日後頃の間 【幼穂長 1cm～8cm】
	5月1日	6月29日	6月27日	6月26日	6月26日	
飼料用米 (アキヒカリ)	5月15日頃	6月26日頃～				幼穂形成期前5日頃から 幼穂形成期後5日頃 (ただし、最高分げつ期に葉 色が低下した場合は、すぐに 追肥)
飼料用米 (夢あおば)	5月15日頃	7月3日頃～				

※幼穂形成期は、4月20日植付の「ふさおとめ」「ふさこがね」は水稻作柄安定対策調査結果の実測値から。その他は、H28千葉県試験研究成果普及情報を基に予測。ただし、飼料用米は、水稻作柄安定対策調査結果等を参考に予測。

各品種の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量で各3kg(房総南部の粘質土では、窒素成分を「ふさおとめ」は1～2kg、「ふさこがね」は2～3kg、「コシヒカリ」は2kg)です。

幼穂形成期の目標生育量（表3）を参考に、生育量が旺盛の場合は、追肥時期を遅らせ、2割程度減肥しましょう。

なお、「飼料用米多収品種（専用品種）」は、窒素を単肥で3kgです。

表3 幼穂形成期の目標生育量

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)			葉色 (カラー スケール値)
		砂質土	壤質土	粘質土	
ふさおとめ	55 以下	570~620 (31~34 本)		520~570 (29~31 本)	4.0
ふさこがね	60~65 以下	450~500(25~27 本/株)			5.0
コシヒカリ	70 以下	430~560(23~30 本/株)			3.5~4.0

※茎数の () 内は 30cm×18cm で植付された時の 1 株平均茎数

■水管理

中干し後は間断かんがいを行い、その後、幼穂を確認したら入水を開始し、出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理(※)を行います。

(※) 自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために必要な技術です。

○飼料用米の中干し

5月15日頃に植付した飼料用米の「アキヒカリ」、「夢あおば」は6月中旬頃から中干し開始時期となります。

なお、飼料用米における中干しは、茎数増加に影響しない程度とし、収穫時に大型機械がスムーズにほ場に入れるようにしましょう。

○低温時には湛水（飼料用米は特に注意）

幼穂形成期以降に日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水（保温）しましょう。

特に冷害危険期とされる幼穂形成期後 10日～15日（出穂前 15～10日）は、湛水の深さを 20 cm程度とします。

表4 品種別の冷害危険期

品種	植付時期	冷害危険期予測（千葉市）※ （冷害危険期は、下記から5日間）
ふさおとめ	4月20日	6月21日※
ふさこがね	4月20日	6月21日※
コシヒカリ	4月20日	6月30日※
	5月 1日	7月6日

※農林総合研究センター（千葉市）の実測値から予測

■病害虫防除

農薬の使用に当たっては、収穫前使用基準等の登録内容を良く確認して、適期に防除しましょう。

○いもち病

いもち病は、平均気温 20～25℃で曇雨天が続く場合に発生しやすいため、予防として常発地では粒剤を散布しましょう。粒剤の散布時は 3～5cmの湛水状態とします。

○紋枯病

梅雨の時期は感染しやすい条件となるので、飼料用米多収品種のような多肥栽培や常発地では、予防剤を散布しましょう。

表5 いもち病、紋枯病の主な防除薬剤（粒剤）

薬剤名	病害名	いもち病	紋枯病
オリゼメート粒剤		○予防	
キタジンP粒剤		○予防	
ゴウケツ		○予防	
コラトップ 粒剤 5/ジャンボP		○予防	
ブイゲット粒剤		○予防	
フジワン粒剤		○予防	
ルーチン粒剤		○予防	
モンガリット粒剤			○
モンカット粒剤			○

○イネクロカメムシ

イネクロカメムシの被害は、生育初期では葉の黄白色斑点、葉先枯れ、株の矮小、心枯茎の発生、幼穂形成期以降では出すくみ穂、白穂、不稔粒、屑米が発生します。株元に成虫の発生が多い場合には、薬剤防除をします。

（防除薬剤例：スタークル/アルバリン粒剤、10aあたり3kg、収穫7日前まで3回以内、または、エルサン粉剤2、10aあたり4kg、収穫7日前まで2回以内）

○斑点米カメムシ類（畦畔雑草の草刈り）

畦畔雑草は斑点米カメムシ類の生息場所となり、出穂前後の草刈りは斑点米カメムシ類をほ場の中に追い込みますので、出穂2週間前までに畦畔雑草を刈取ります。

表6 品種別の出穂期予測

品種	植付時期	出穂期予測
ふさおとめ	4月20日	7月8日
ふさこがね	4月20日	7月9日

※H28千葉県試験研究成果普及情報を基に予測（千葉市）

過去に掲載した内容や病害虫の発生予察情報等については、千葉県ホームページ「生育情報」を御覧ください。（ <https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiku/index.html> ）

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、6月27日に発行予定です。